

**【正誤表】**  
**化学物質管理者講習テキスト**

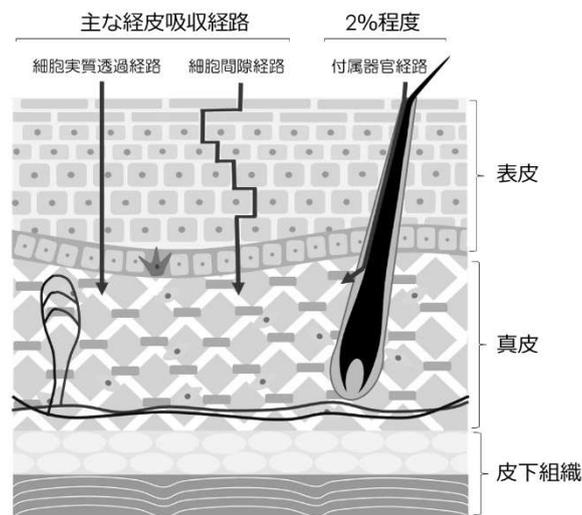
下記の誤りがありました。訂正してお詫びします。

ページ・行	誤	正
66・↑7	呼吸器の構造は図 3.3 に示すように	呼吸器の構造は図 3.4 に示すように
67・↑10～68・↓1	※「(3) 皮膚を介しての侵入」についての追記を別紙に示す	
67・↑6	毛細血管が網状に走っている (図 3.4)	毛細血管が網状に走っている (図 3.6)
77・↓4	図 4.1 の手順 3・4	図 4.1 の手順 3 および手順 4
82・↑9～↑8	CREATE-SIMPLE, ばく露限界値や管理濃度が設定されてい <u>な無なくても</u>	CREATE-SIMPLE <u>は</u> , ばく露限界値や管理濃度が設定されて <u>いなくても</u>
87・↑6	ILO 版コントロール・バンディング <u>の</u> 同じ	ILO 版コントロール・バンディング <u>と</u> 同じ
91・↓5	選択肢 <u>を</u> 選択により	選択肢 <u>の</u> 選択により
92・↑1～93・↓1	ばく露限界値 (許容濃度 <u>や管理濃度な</u> <u>ど</u> ) が	ばく露限界値 (許容濃度 <u>など</u> ) <u>や管理濃</u> <u>度</u> が

〔凡例〕 [↓n] は上から数えて n 行目, [↑n] は下から数えて n 行目を示します。

### 67 ページ「(3) 皮膚を介しての侵入」についての追記

なお、最近の知見によれば、主な皮膚吸収の経路には、皮脂腺、汗腺または毛嚢から侵入する経路のほか、細胞の中を通過していく経路、細胞と細胞の間の脂質の部分をはけていく経路があるとされている。化学物質のうち、分子量があまり大きくない化学物質は通常、細胞の中を通過する経路および細胞間の脂質を通過する経路で吸収され、分子量がかなり大きめの化学物質が皮脂腺や汗腺を通る経路で吸収されると考えられている。有機溶剤など作業場所で発生する大部分の化学物質の分子量は大きくないので、そのほとんどの吸収は細胞の中を通過する経路および細胞間の脂質を通過する経路を介することとなり、皮脂腺や汗腺を通る経路で吸収されるのは、全体の2%程度であると言われている。



(出所) 柳場由絵. 皮膚等障害化学物質と保護具.  
作業環境 2024 ; 45(5) : 5.

皮膚吸収の経路